

株式会社ニシキプリント

〒733-0833 広島市西区商工センター7-5-33 (本社) ☎082-277-6954

〒739-2117 東広島市高屋台2-1-12 (東広島工場) ☎0824-34-6954

<http://www.nishiki-p.co.jp>

会社概要

沿革

昭和42 (1967) 年、広島市中区西白島町で創業。昭和50 (1975) 年に株式会社ニシキプリントへ法人化。

昭和55 (1980) 年、現在地に新社屋完成、移転。

平成3 (1991) 年、重度障害者多数雇用事業所の東広島工場が完成、操業開始。

平成9 (1997) 年には広島市長が積極的に経営改善に取り組み効果を上げ、表彰。創業以来、「書籍づくりのニシキプリント」との理念を持ち、官公庁、県内各大学を主な取引先として、堅実な本づくりを続けています。

障害者雇用優良事業所表彰

広島県雇用開発協会会長表彰 (昭和52年)

広島県知事表彰 (昭和53年)

労働大臣表彰 (平成元年)



雇用状況

従業員数 84名

うち障害者数 14名

(平成13年12月現在)

事業の概要

図書印刷、学術文献、参考書、統計、事業報告、文集、機関誌、自費出版物、会議議事録、講演要旨等の印刷物製作、製本、およびテープライト

出版物の企画発行、刊行物の編集代行業務



刊行してきた数々の書籍の一部

障害者雇用に向けて

会社設備

株式会社ニシキプリントでは現在、身体障害者を中心に重度障害者が多数勤務しています。障害の種類・程度、本人の資格や能力に応じて、以下の職種に従事しています。

パソコン操作によるオペレーション	5人
工場内での印刷・裁断・製本	3人
事務・経理	4人
企画・営業	2人

今までは身体障害者の勤務の許容度が高い上記の職種にも、通路が狭い、段差があるなどの理由で勤務が難しい環境がありました。

平成3（1991）年に完成した東広島工場は、当初から障害者雇用を視野に入れて設計。広い通路、階段・トイレ等への手すりの設置、エレベーターの設置、段差へのスロープの設置など、バリアフリー環境を実現しました。また、障害者用の駐車場を入口近くに優先的に設置しています。

身体障害者も介助者なしで通勤・勤務することが可能になり、就労への身体的負担が大幅に軽減しています。

本社社屋では、トイレに手すり等の設備がなく、身体障害者の利用には時間と労力が必要でした。

手すりを完備した洋式トイレを設置。身体的負担の軽減を図っています。



東広島工場外観



身体障害者が多数勤務するパソコンオペレーションの部署



経理部門



空間的余裕が広くとられた工場内



改装された本社内のトイレ

制度と取り組み

障害者の職場定着推進チーム「チームネクスト」を発足。チーム内の委員会で勤務環境を協議し、随時改善にあたっています。今までの活動として、車いすの人の通勤をサポートする乗り合いバスを整備。特に公共交通機関の少ない東広島工場で活用されています。また本社では、ニシキプリントの「草の根運動」として、担当を決めて近くのバス停を清掃し、利用しやすくするなどの活動を続けています。



車いすの人の通勤をサポートする乗り合いバス



平成4年6月に、障害者の能力向上・技術習得のために社内基金「チームネクスト基金」を設立し、運用しています。

全国の障害者が業務技術を競う「アビリンピック」に積極的に参加し、第13回、第20回では銅賞を受賞。自分の技術がどのくらいのレベルか認識し、向上心を高めることに役立っています。

聴覚障害者の雇用も随時進められる中で、社員同士の自発的な取り組みとして、勤務時間外に手話の講習を受け、勉強する人が出てきています。仕事のやりとり、連絡事項の通達等が手話を通じて行われています。



仕事のやりとりが手話で自然に行われています

Top's Interview

障害者の雇用は、当社が創業してまだ間もないころ、聴覚障害の方を雇ったことがきっかけです。非常に緻密で正確、取り組みの姿勢も素晴らしく、高い品質の仕事を行う人でした。それをきっかけに、私たち経営側から障害のある人、ない人という意識がなくなりました。会社は、その人の“仕事を見る”のであって、障害者かどうかを見るのではありませんから、当然待遇、業務内容等に一切の区別はありません。幸い我々の業界には、パソコンやトレースなどデスクワークも多く、障害のある方が活躍できる環境があります。そしてこれからも、その環境のさらなる改善に一層取り組んでいくつもりです。



代表取締役会長
宮崎 潔さん



代表取締役社長 宮崎 真さん

私は小さいころから工場に出入りしていて、障害者の仕事を間近に見ながら、違和感なく接していました。障害のある人もない人も区別なく仕事をする中で、逆に私たちの方が、やさしさ、思いやりといったようなことを、知らず知らずに教えてもらっているようなところがあります。障害者雇用にはハードの部分での環境整備ももちろん大事ですが、当社には“階段を上るとき自然と誰かが付き添う”ようなソフト面での自然な雰囲気があり、それは誇るべき部分かもしれません。技術を持った一人の人間に、障害のあるなしは関係ないでしょう。

専務取締役 市村 章さん

当社では、ハンデを持った人たちが区別なく同じ環境で仕事をすることによって、組織が良くなってきている事実があります。一般企業ですから常に利益を追求していかなければなりません。障害者も当然ながら重要な戦力として勤務してもらっています。障害者に同情しては、逆に定着しません。障害のない人はある人に対し、同情ではなく理解すること。それでいいと思います。要は技術を持った人間でありさえすれば、どんな環境でも活躍できるものだと思っています。



常務取締役 工場長 上川 富三さん

上川さんは平成13年9月、優秀勤労障害者厚生労働大臣表彰を受賞しています。「私にも身体の障害がありますが、子どものころから周囲の子どもたちと当たり前のように接していました。逆にそういった環境の中で、私も周囲とのつき合い方を学び、彼らも、身近に障害者がいるという“人間として当たり前の状態”を受け入れていったのかもしれないと思います。障害のある人もない人も、一緒の環境で働くことは、社会生活の上でお互いにプラスでしょうし、いるとかいないとか意識しないことが当たり前の状態なのだと思います」